とかち帯広ＦＣ

静岡市長杯

第４７回清水チャンピオンズカップ報告書

大会結果

☆予選リーグ

第１試合　　とかち帯広ＦＣ　４－１　清水エスパルスU－１２（静岡県）

第２試合　　とかち帯広ＦＣ　０－４　左京支部選抜（京都府）

３チームとも１勝で並び、得失点差で３位トーナメントへ

☆３位トーナメント

第１回戦　　とかち帯広ＦＣ　１－０　原ＦＣ（神奈川県）

第２回戦　　とかち帯広ＦＣ　０－４　上越トレセン（新潟県）

参加２４チーム中　第１９位

２０１９．１２．２１～２２

清水総合運動場他

報告者　十勝少年サッカー連盟技術委員　　竹本　良平

「伸びしろ」を感じた第４７回大会でした

十勝少年サッカー連盟　　竹本　良平

この清水チャンピオンズカップは、全国各地の大会で優秀な成績を収めたチームが、サッカーどころの清水に集い、その年の真のチャンピオンを目指す大会として定着している名誉と権威のある大会です。我々「とかち帯広ＦＣ」は、大会実行委員会の推薦も含めて今回で１７年連続の出場となりました。

この大会に初めて参加したのが、十勝選抜チームが全日本少年サッカー大会で３位の快挙を成し遂げた年でした。全国３位の結果を背負って清水に乗り込みましたが、予選で１勝もできず、内容的にも豊富な運動量や強いフィジカルに手も足も出せなかったことを思い出します。それから十勝地区としても地区をあげて選手の育成に取り組み、その成果が少しずつ表れて、近年では昨年度の優勝を含み、２回の優勝を果たしています。

今年度の十勝トレセンの活動は、池田の利別川河川敷グラウンドを中心に行いました。１１月下旬には幕別札内ＦＣのＵ－１３、コンサドーレ釧路Ｕ－１３に協力していただき、試合形式のトレーニングを行いました。それからは屋外でのトレーニングはできず、屋内でのトレーニングを行い、今大会を迎えました。守備での厳しさ、ビルドアップの部分に少し不安を抱えた中での大会参加でした。

大会前日に清水入りし、地元のチーム、船越ヴァ―モスに協力していただき、トレーニングマッチを行いました。普段屋内練習しかできていない選手は、屋外でサッカーができることに喜びを感じているようでした。動きもよく、良いプレーも随所に見られ、翌日からの大会に期待をもちました。

今大会、２日間で４試合、全国の強豪チーム相手に戦いました。昨年が優勝ということもあり、選手にも多少のプレッシャーはありましたが、試合によっては、全国の強豪チームと互角以上に戦うことができました。ただ、課題も多く、選手、スタッフが多くのことを学ぶことができた大会でした。たくさんの刺激を受け、良い選手を育成するという本来の目的は達成することができた大会参加となりました。初めて参加した頃から比べると選手の「個」の能力は十分全国に通用するレベルにあると思います。これは、十勝の指導者の方々が労を惜しまず、選手育成に携わり、指導について学習し、選手の「個」のレベルを上げてくださった成果だと思います。この「個」の力に更に、サッカーの個人戦術が身に付けば、将来的にもっと素晴らしい選手になるという可能性を感じました。

今回感じた課題を十勝の皆さんと共有し、さらに良い選手を育成する一助となれば幸いです。

なお、今年の大会も、清水の船越サッカー少年団、旅館日本閣さんはじめ、多くの関係者の方々にたいへんあたたかいご支援を受け、充実した遠征となりました。

１２月２１日（土）

☆予選リーグ第１試合　　とかち帯広ＦＣ　４－１　清水エスパルスU－１２（静岡県）

戦前から苦戦が予想された初戦。予選は２試合、この試合を落とせば、決勝Ｔへの道が絶たれるプレッシャーの中での試合開始であった。相手のフォーメーションは３－３－１相手の⑩の１トップが効果的にスペースを狙い、パワーのあるサイドＤＦの⑮が積極的に攻撃参加をするのが特徴であった。立ち上がり、少し硬さのあるとかちに対して、エスパルスが優勢に進めるが、ＧＫ①のファインセーブもあり、早い時間での失点を免れる。少しずつ動きの良くなった十勝もＦＷ⑨を起点に攻撃し、決定機をつくるが、決めきれず。前半６分、ルーズボールを⑨が拾い、ミドルレンジからシュート、それが決まって先制。相手ＤＦが⑨のスピードになかなか対応できず、８分にも⑨が右サイドを突破し、シュートを決める。前半終了間際の１９分にも⑨が右サイドから最後は⑫につなぎ、⑫が落ち着いてゴールに流し込んで前半終了。

思いがけず、３－０というリードで後半を迎えたが、相手もとかちの攻撃に対して対応できるようになり、膠着状態が続く。後半１０分に⑩が左サイドを突破し、そのままシュートを決めリードを拡げる。次の試合のインターバルが１試合しかないこともあり、疲労の出てきた選手を交代し、フレッシュな選手を投入する。このまま無失点で終われるかと思った終了間際の後半１９分に相手のＣＫが味方ＤＦに当たり、オウンゴールで失点。ゲームはそのまま終了し、予選のスタートとしては上出来のスタートとなった。

☆予選リーグ第２試合　　とかち帯広ＦＣ　０－４　左京支部選抜（京都府）

予選２戦目の相手は、京都の地区トレセン。相手にとっては初戦となり、何の情報もないまま、試合を迎える。それに対して、相手はとかちの初戦をスカウティングし、対策を練ってきた感じであった。相手の特徴としては、関西のチームらしい、強いフィジカルコンタクトのパワフルなチームであった。開始から、ゴールキックやＧＫからのフィードを激しくチェイスして、高い位置でボールを奪おうとする場面が多く見られた。５分にはビルドアップのミスからコーナーキックとなり、そのコーナーキックをマークがつききれず、決められ、失点。攻撃も１試合目で活躍した⑨に対して左京支部は徹底してフィジカルの強い選手をマッチアップし、とかちの得点源を封じる。１０分には右サイドを突破され、シュート、そのこぼれ球をつめられ、失点。さらに１６分、味方のコーナーキック時に、リスクマネジメントができていないＤＦに対してカウンター。そのカウンターに対して、素早く反応した相手選手にゴールを決められ失点。前半が終わって０－３のビハインドとなった。ハーフタイムには、相手の速いプレッシャーに対して慌てずにボールを動かすことを確認する。守備については、味方セットプレー時のリスクマネジメントをしっかりすることを確認する。

後半に入り、何度かチャンスを作る場面もあったが、決めきれず。３ 点のビハインドに対して、積極的な攻撃が見られず、ベンチからは思い切って攻撃するよう、指示をする。前半はビルドアップに苦しむ場面もあったが、後半は少しロングボールを多用してしまい、

攻撃が単調になる。なかなか相手の守備を崩せないまま、時間が経過し、とかちの選手に疲れの見え始めた後半１８分には左サイドの相手のスローインから突破を許し、失点。そのままゲームが終了し、トータル０－４の大敗となる。

その後のエスパルスＶＳ左京支部選抜の試合が４－０でエスパルスが勝利したため、３チームが１勝で並び、得失点差で＋１のエスパルスが１位。±０の左京支部選抜が２位、－１のとかちが３位となり、３位トーナメントに回ることとなった。

１２月２２日（日）

☆３位トーナメント第１試合　　とかち帯広ＦＣ　１－０　原ＦＣ（神奈川県）

原ＦＣは過去に何度か対戦したこともあり、強豪がひしめく神奈川で活動する好チームである。豊富な運動量、高いスキルを持った選手が多く、３位トーナメントといっても侮れない相手である。試合前のミーティングでは、昨日うまくいかなかった、単調な縦への攻撃ではなく、横を意識して攻撃すること、守備では強くアプローチすることを確認して試合に臨む。

試合が始まって、確認通り、ボールを動かし、意図的に崩す場面が見られるがゴールにはつながらない。守備では相手のスキルフルなドリブル突破から何度か決定機を作られるが、ＧＫ①のファインセーブが光り、相手に得点を許さない。３ 位トーナメントとは思えない緊張感のある好ゲームとなる。前半は０－０で折り返す。ハーフタイムには攻撃時のボールへの距離感（よりすぎない）、ＦＷの強いアクション、丁寧につないだ方がチャンスを作ることができることを確認する。

後半は確認通り、ピッチをワイドに使い、ボールを動かし、何度かチャンスを作る。後半１１分、左サイドのコーナーキックを⑫が蹴り、⑩が頭で合わせ、得点。欲しかった先取点をもぎ取る。得点直後に左サイドから相手のドリブル突破を許し、折り返され、シュートを打たれるが①がファインセーブを見せる。終了間際の１９分にはペナルティエリアのすぐ外でハンドの反則をとられ、ＦＫを相手の良い位置から撃たれるが、ここでもＧＫ①がシュートストップをする。そのまま終了となり、１－０で競り勝つ。

☆３位トーナメント２回戦　　とかち帯広ＦＣ　０－４　上越ＴＣ（新潟県）

３ 位トーナメントの２戦目は、新潟県の地区トレセンのチームである。新潟県のサッカーレベルは高く、良い選手がそろっているという印象であった。試合前には、１試合目でトライした、丁寧につないでチャンスを作ることを確認して試合に臨む。選手は確認通り、後方からビルドアップにトライをしていた。もちろんミスもあるので、そのミスから１分の早い時間に失点する。それでも、トライしなければ、何の進歩もないので、選手は果敢にトライしていた。前半はその１点の失点で終了する。

後半も果敢にビルドアップにトライしていた。４分、守備のファーストディフェンスの寄せが甘くなったところを、ミドルシュートを決められ、失点。９分にはビルドアップのミスからボールを失い、右サイドを突破され、折り返したところをつめられ、失点。攻撃

では、苦しくなると、前方にロングボールを蹴ってしまう場面が見られるようになり、なかなかチャンスを作ることができなかった。１５分にはコーナーキックをヘディングで合わされ、失点。トータルでは０－４での大敗となったが、失点しても、こだわって後方からしっかりつなぐことを意識できたゲームとなった。今後に大きな課題を残すが、それが選手にとっては大きな財産となった。

成果と課題

成　果

・テクニック

各チームでも取り組んでいただいている「動きながらのパス、コントロール」、これは、だいぶ定着しつつある。ボールを蹴ることのできるタイミングで受け手がアクションを起こし、そのアクションに応じてパスを供給するというプレーは随所に見ることができた。

・崩し

組織的に崩すというよりは、個で崩す場面が多く見られた。スピーディーなドリブルで、相手のＤＦを崩すことができた。

・守備

強いアプローチからファーストディフェンスが厳しく守備をして、ボールを奪いきる場面、またそこから規制をかけながら、インターセプトを狙う場面が多く見られた。

課　題

・味方の状況を観た攻撃の選択肢

前方にいる選手にサポートがなくて、優位な状況ではないにもかかわらず、そこにボールを供給してしまい、ボールを失う場面が多く見られた。

・ＧＫを含んだ後方での安定したポゼッション

正確なパス、コントロールをして、安定して後方でボールを保持することが、なかなかできなかった。改めて正確なパス、コントロールの必要性を感じた。（ハイプレッシャーの中でも）

・リスクマネジメント

いつ、どこが危ないのかという危機意識が薄い場面が多く見られた。攻守の切りかえが遅れたり、前方の選手のプレスバックがなかったりして、ピンチをつくり出してしまった。

終わりに

　終わりになりましたが、この遠征に際しまして、十勝地区サッカー協会はじめ、十勝少年サッカー連盟、各単位少年団関係者の皆様方、そして保護者の皆様には、多大なご支援とご協力をいただき心より感謝申し上げます。今後とも、十勝地区のレベルが高まるようスタッフ一同努力いたしますので、今まで以上のご指導、ご協力をお願いいたします。

　簡単ではありますが、選手の健闘ぶり、成果と課題をまとめましたのでお読みください。

今大会に参加した１６名の選手へのコメント　文責　守内コーチ

１

　大会を通してチームの守護神として持ち前の反射神経を活かし、数多くのファインセーブでチームを救ってくれました。特に原 FC 戦のセーブは圧巻でした。足元の技術も身についているので常にアウトナンバーという意識を持ちながらロングボールで逃げることなく積極的にボールに関わることで現代的な理想の GK になるでしょう。

２

　攻撃の優先順位を意識した中での落ち着いた配球、オフでの効果的な攻撃への関わりはチームに厚みのある攻撃をもたらしました。守備時にもっとインターセプトを狙いに行けるようにオフのポジショニングを修正するとこで、持ち前のフィジカルを存分に発揮できます。また、１試合通して戦い抜ける体力を付けましょう。

３

　１対１の対応はチームでもトップクラスであり、粘り強い守備でチームに貢献してくれました。足元の技術は習得しているので常に縦パスを意識したポジショニングを取ることで安定したボール保持に繋がり、攻撃の起点となるでしょう。

４

　全国の強靭でテクニカルな FW 相手に対人守備の強さ、ボール状況を観ながらのカバーリングの速さはチームにとって欠かせない存在となりました。普段からボールに多く触れ、ボールフィーリングを高めることで落ち着いて自信をもって攻撃に関わることが出来るでしょう。

５

　小学生離れしたフィジカル、スピードで相手の攻撃陣を抑え、そこからの積極的な攻撃参加は相手に恐怖を与えていました。左足をもっと使えるようになるとプレーの幅が広がります。また、サッカーの大部分はボールを持たないオフの時間だということを十分理解し、誰も手に負えない選手になることを期待します。

６

　今大会、キャプテンとして常にサッカーに対して真摯に向き合い、プレーでチームを引っ張っていってくれました。危機察知能力、予測に優れており、中盤でのボール奪取は一級品でした。自分のプレーに自信を持ち、攻撃面でボールに効果的に関わり続けることで攻守において相手から嫌な選手となるでしょう

７

攻守において献身的に走り回り、リスク管理を行いながら、チーム随一のスピードを活かした攻撃参加はチームに貢献し、十勝トレセンスタッフ推薦の優秀選手賞を受賞しました。また、遠征中に身に付けたドリブル技術を試合ですぐに実行できるセンスも光りました。自分の考えを積極的に伝えられる気持ちの強さを持ち、チームを引っ張っていってください。

８

自チームで培われたサッカー理解とテクニックを活かし、サッカーを楽しむということを全身で表現していたのは現日本代表の 10 番と重なるところもあり、チームに常にいい雰囲気を与えていました。オフザボールのポジショニングはチーム№1 でチームのバランスを取り続けてくれました。「個」での突破も常に考えながら、さらなるハードワークを期待します。

９

圧倒的なスピードで相手を切り裂き、初戦のエスパルス戦では 2 ゴール 1 アシストと最高の活躍をしてくれました。ドリブル時のコース取りは目を見張りました。オフザボールで DF との駆け引きを常に行い、ボールを持った際に優位に立てるような工夫が必要です。また、守備時にさらにハードワークをすることで連動した守備のスイッチを入れられるでしょう。

１０

サッカーセンス、スピードはチーム随一でドリブル突破からの両足の精度の高いキックで多くのチャンスメイクをしました。ゴール前での駆け引きは優位に立ち続け、相手の脅威になっていました。守備時に常に危険なスペースを埋めながら、カバーリングもできるポジショニングを取り続けることでボールを奪った際にいい距離間でボールに関わることが出来るでしょう。

１１

サイドでのハードワークでチームに貢献し、左足での精度の高いキックでプレースキッカーとして良いボールを供給していました。ボールフィーリングも高く、難しいボールに対してのインパクトは目を見張りました。ボール保持時に急がず、落ち着いてボールを運べるようにオフのポジショニングを工夫することで得意なドリブルがより効果的にできるでしょう。

１２

前線のスペースのない中で相手を感じながら駆け引きを繰り返し、ボールを引き出すアクションは目を見張りました。体格差がありながらもタフに大会を戦い抜いたことは年代が上がった際にも活きる非常に良い経験になったと思います。ボールを引き出す際の細かいタイミングを修正し、味方をもっと意識することで個でもグループでも有効に攻撃を進められるでしょう。

１３

テクニックはチーム随一であり、効果的な持ち出しで味方のアクションを引き出していました。また、パンチのあるロングシュートで積極的に相手ゴールを狙い、相手を脅かしていました。大会を通して複数のポジションをこなせるユーティリティ性も発揮していました。１ 試合を通してハードワークをし、前線に抜ける動きなどアクションを増やせるといいでしょう。

１４

飄々としたプレーは相手のプレッシャーをいなし、効果的にボールを保持し、味方に有効な時間を生み出すことが出来ていました。ボールを受ける前に身体の向きを作り、観るものを増やすことでもっとボールを引き出すことが出来るでしょう。守備面での粘り強さを身に付けることも期待します。

１５

持ち前のテクニックで前線でのワンタッチプレーは相手に的を絞らせず、チームにいいリズムを与え、攻撃を活性化させました。ゴール前でもっとストライカーとしてエゴを出すことで相手の脅威となり、チームにとって不可欠な選手になるでしょう。やられたくないところを意識しながらの守備を身に付け、さらなるハードワークを期待します。

２０

後ろから声を掛け続けチームを盛り上げました。ビルドアップに積極的にチャレンジし、ゴールまで繋がるプレーがあり、今年１年取り組んできた結果が出ました。日常から、FP の経験もすることでパス&コントロールの質を高め、自信を持ってプレーできるようになるでしょう。